

知ってますか
技術の

あれこれ

22

連載余話

取材メモから



三浦 基弘

MURA Motohiro

元大東文化大学講師
土木学会100周年記念誌編集委員

土木学会100周年記念行事

あけまして おめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年9月、JSTTの小谷和弘事務局長より、今回の連載記事の内容についての要望があった。「三浦さんは、土木学会の100周年記念誌に編集委員として関わったので、このことと100周年行事のことなどについて書いてほしい」という旨のお電話。しかし、筆者よりも適任者がおられるので、100周年事業推進室長の片山功三さんを紹介させていただいた（本誌pp.79-84）。

昨年11月に土木学会100周年を迎えた。縁あって、筆者は100周年記念誌編集委員のひとりに選ばれた。

土木学会のホームページに、広報として下記のメッセージがある。「土木学会は、2014年11月をもって創立100周年を迎えます。これまでの本会活動の歩みを振り返るとともに、今後の100年の世界を見通して、土木界、土木学会、土木技術者のあり方を検討する機会にするべく、2013年から「社会安全」「社会貢献」「市民交流」「国際貢献」を基本として100周年事業を展開してきました。

2014年11月21日に開催される記念式典では、社会と土木の100年ビジョンに基づき、サステナブルな社会の構築に貢献する土木の姿とそこで活躍する土木技術者のあり方・役割を「100周年宣言」として公表します。

これを機会として、土木技術者一人ひとりが、市民

のための工学である「土木」の担い手であることを認識し、市民の方々にも、未来の国土づくりを目指す本会の取り組みを知っていただく出発点としたいと考えています」。

11月21日の式典は、東京国際フォーラムに1,400人の関係者が蝟集し、盛大に開催された。式後、帝国ホテルの孔雀の間で記念パーティが行われた。出席者は1,300人。第66代の土木学会長（1978-1979）の仁杉巖さんの冒頭の挨拶で、「土木学会の会員の中で、私が一番年長だそうでございます」というくだりがあり、「信念を貫く技術者であれ」の激励に感銘を受けた。100歳とは思えない矍鑠たる姿。現在の磯部雅彦会長は102代にあたる。

筆者はこの連載に、すでに21回書かせていただいたので経緯、裏話などを紹介させていただくことにする。

連載のきっかけ

連載のスタートは2009年10月1日号（NO.69）。今から5年前の2009年の春、JSTT委員会理事堀地紀行（国土舘大学教授 ロンドン名誉市民）さんから、依頼があった。堀地さんのお付き合いのはじまりは、依田照彦早大教授の紹介。堀地さんが2006年から1年間、イギリスのロンドン大学で研究するため、日本に不在の間、筆者に「構造力学」の講師をお願いされたことによる。

連載の内容は、本誌の専門性を生かし、地下に関する話題という。筆者は地下構造物の専門家ではないし、